

— 仙洞御所 —

すはま 仙洞御所 南池の洲浜



仙洞御所南池の水際、きれいに平たい楕円の石を敷き詰めたところを^{すはま}洲浜と呼んでいます。

この洲浜の石は文化14年^{こうかく}(1817)光格天皇が譲位されて上皇になられた際に、仙洞御所改修の一環として、当時の京都所司代の小田原藩主^{ただかね}大久保忠真が献上したものです。

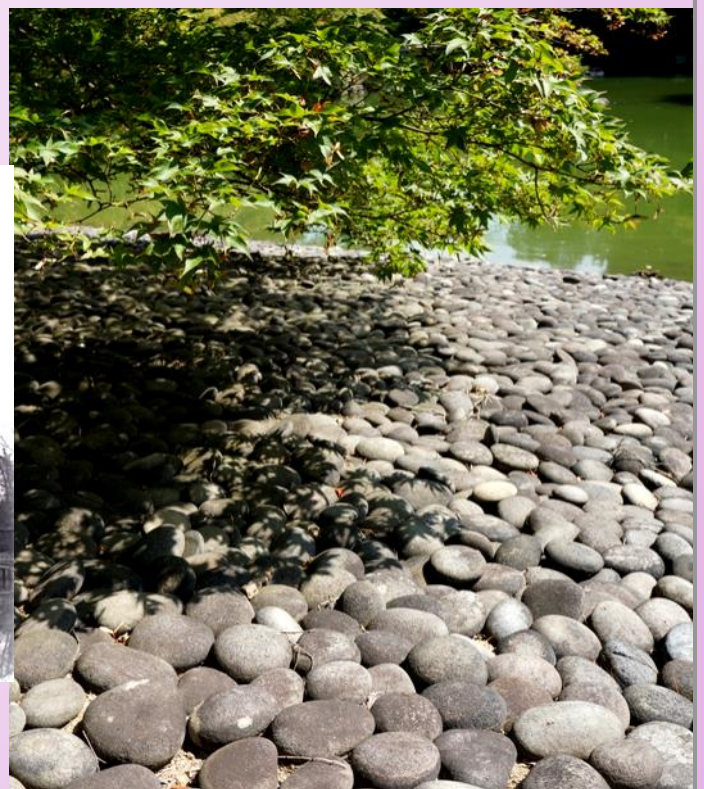
石は小田原領内の吉浜村(現在の湯河原町)の海岸から、2千俵を運んだとのこと

です。この石には一升石という呼び名がありますが、それは小田原藩がこの石と米一升を引き替えたとの伝承があることによるものです。

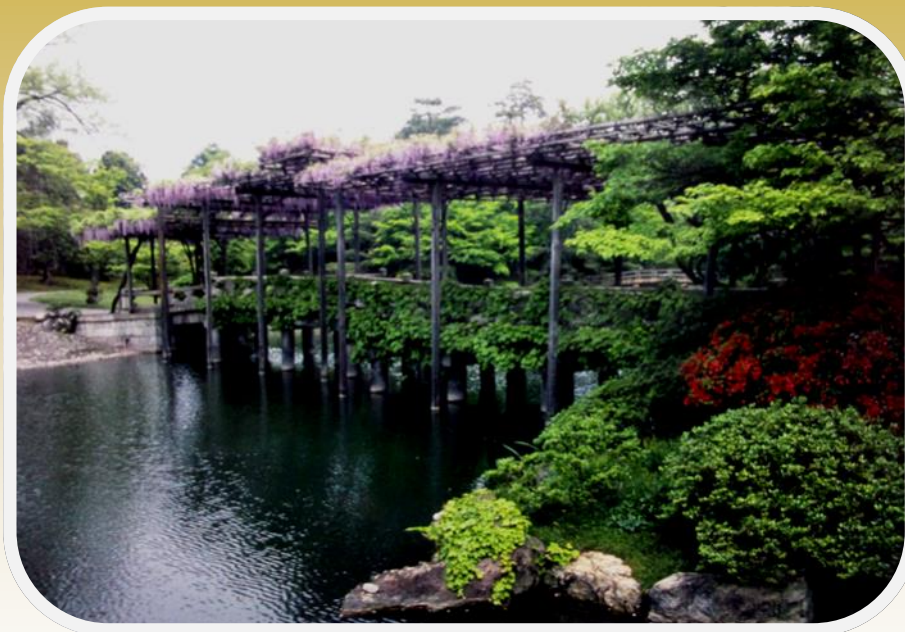
洲浜は南池の西岸のハツ橋南側から南岸にかけて長さ約100メートル、幅7～12メートルあり、石はそれぞれ10～15センチ、重さ400～800グラム位の平べったい安山岩の丸石で、総数約11万1千個あります。当時、これだけの粒揃いの石を集めることも大変だったかと思いますが、湯河原から京都まで運ぶのも相当な労力が必要だったことでしょう。



昭和11年3月の仙洞御所南池 洲浜の様子
(京都事務所保存のガラス乾板より)



ハツ橋にかかる藤棚



仙洞御所の南池にハツ橋という石橋があります。元々は木の橋であったものを明治28年(1895)に石橋に掛け替えたものです。

ハツ橋とは数枚の橋板を向きを変えながら継いで架け渡した橋のことで、「伊勢物語」に出てくる三河国の八橋に由来すると言われています。

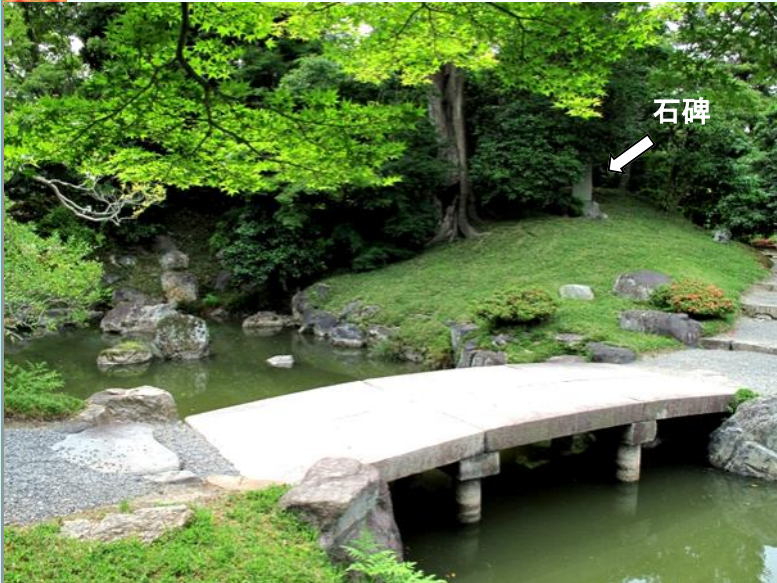
そこは水の流れる川筋がクモの手足のように八方に分かれていて、橋を八つ渡してあるため、その名が付いたとのこと。



仙洞御所のハツ橋は藤棚で覆われています。藤の種類はノダフジといい、棚の面積は約180㎡あります。石橋の架橋とともに植えられたもので、毎年5月上旬頃に30～60cmの房かじょ(花序)を付けます。花が終わると実ができますが、木が弱らないように摘み取っています。

— 仙洞御所 —

あこせがふち 阿古瀬淵の石碑



石碑

仙洞御所北池には、六枚橋の石橋(長さ1.9m 幅1m)があります。その六枚橋の左側にある小さな

あこせがふち
入江は、阿古瀬淵と呼ばれており、その正面築山の上に石碑(高さ120cm 幅50cm 厚さ32cm, 明治8年(1875)建立,

さんじょうにしすえとも せんぶん わたりただあき
書:三条西季知 撰文:渡忠秋)があります。

碑は「紀氏遺蹟碑」と題し、本文はかなり長文の仮名交じり文で、江戸後期の歌人香川景樹が紀貫之の功績を称え、門人の渡忠秋らに貫之由縁の地を探させたこと、貫之の時代から千年の後でその地ははっきりしないが、遺蹟をこの仙洞御所の中と思い、土佐の松山寺(現:観音寺)に古くより伝わる

貫之の筆跡と言われる月の一字を鑄った鏡をこの地に埋め、碑を建てたことなどが書かれています。三条西季知と渡忠秋は共に歌人で、明治天皇の歌道に関わった人物です。

なお碑文に拠れば、貫之の遺蹟を求める際に、『無名抄』や『拾芥抄』といった書物を参考にしています。しかしそれらの書の記述に遡ると、貫之の邸宅があったとされるのは仙洞御所の南端あたりか、さらにもう少し南になると思われるのですが、ここに碑が建っている事情はよくわかりません。あるいはいま碑のある場所に狭く特定する意図はなかったのかもしれません。



— 御所・離宮 —

とうえんめい

陶淵明を題材とした障壁画などについて



清凉殿「漢詩本文の意」 画：土佐光貞

(参観経路からは見えにくい位置にあります)



御所・離宮には中国の有名な詩人である陶淵明(365—427)にまつわる作品がいくつかあります。陶淵明は、六朝時代の人で、官を辞して隠遁し、田園生活を送りながら多くの詩を残したことから田園詩人と称された人物です。陶淵明の隠逸の士としての生き方や、彼の詠んだ詩は人々をひきつけたため、絵画の題材としてよく用いられました。

左の写真は絹貼りの襖絵で清凉殿母屋にあります。寛政度御造営時(寛政2年<1790>)に、土佐光貞が陶淵明の詩を題材として画いたもので、嘉永7年(1854)の火災では焼失を免れ、安政度御造営時に繕われて使用され現在に伝わっています。

襖に貼られた色紙の句は「采菊東籬下(菊を采る東籬の下) 悠然望南山(悠然として南山を望む)」です。陶淵明の詩の中で大変有名なものの一節で、ここには陶淵明が家の東の垣根の下で咲いている菊を採って、ゆったりと南の山(廬山)を見ている場面が画かれています(「望」の字は「見」とされることが多いですが、「望」とする本文も古来存在しました)。この絵を担当した土佐光貞は、土佐派の別家(分家)を創設した人物で、大嘗会に使用する悠紀主基屏風を画き、寛政度内裏では清凉殿の障壁画を担当しました。

下段の写真は、御常御殿の東御縁座敷にある「陶淵明帰去来」という画題の杉戸絵です。陶淵明が役人を辞めて田舎

へ帰る心境を述べた詩「帰去来辞」を題材としたもので、画面の右側に故郷に戻ってきた陶淵明、左側に陶淵明を待ち受ける妻や子どもが画かれています。この杉戸絵は、森派の森寛齋が担当しました。寛齋は、前述の如雲社に所属し、京都府画学校の教授を務めたり、皇室技芸員となって京都画壇の興隆や門人の育成に努めた人物です。



御常御殿「陶淵明帰去来」 画：森寛齋





修学院離宮(下離宮)寿月観一の間「虎溪三笑」画:岸駒
こけいさんしやう がんく
 (御殿内の物は模写。写真は収蔵庫で保管している原品)

鑑

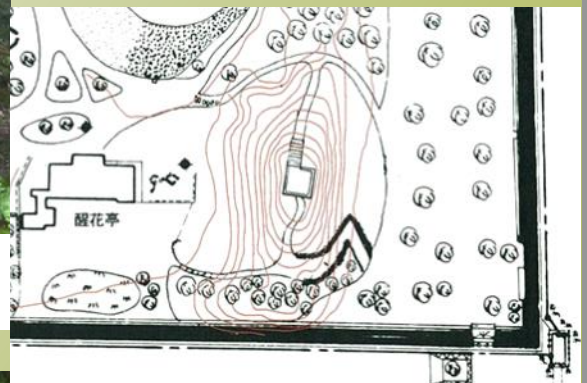
陶淵明は栞其の二で紹介した修学院離宮・下離宮の寿月観の一の間にある襖絵「虎溪三笑」にも登場します。虎溪三笑は、中国の『廬山記』に記される故事で、東洋画の画題として用いられます。この障壁画では、陶淵明が慧遠えおんという高僧りくしゆうせいと陸修静(5世紀頃活躍した道士)と話をしている場面が画かれています。

障壁画以外にも、陶淵明に関するものがあります。それは、仙洞御所の庭園の東南隅にある悠然台です。現在は、階段及び建物の基礎部分しか残っていませんが、小高い丘になっており、悠然台からは遠くまで見渡せたことが想像できます(参考:下記図)。悠然台は先ほど掲げた詩の「悠然望(見)南山」から名付けられたとされています。江戸時代に選ばれた仙洞十景の一つに「悠然台の月」があることから、この辺りからは綺麗な景色が楽しめたものと思われます。



苑路より悠然台へと続く階段を望む

鑑



等高線を用いた図(等高線:色線50cm間隔)



悠然台(近景)



悠然台が画かれる絵図(京都事務所蔵)

— 仙洞御所 —

仙洞御所の秋



京都御所の東南すぐの所に、一つの築地塀に囲まれて京都大宮御所と仙洞御所があります。

仙洞とは仙人の住むところの意味から、仙洞御所は譲位された天皇(上皇)のお住まいをいいます。

この地に仙洞御所が定まったのは、後水尾天皇が上皇になられた時からで、造られてから7度焼失し、7度目の嘉永7年(1854)の火災の後には、上皇になられる方がいなかったため、御殿は再建されないうままとなっていますが、大きな池を中心とした、のびやかで美しい庭園が保存されています。

現在、仙洞御所の庭には、120種約4500本の樹木があります。その中で秋を彩るモミジは、イロハモミジやヤマモミジなど約370本、他にイチヨウ25本、エノキ49本、サクラ127本など、色とりどりの紅葉となります。



中島



紅葉橋



南池

昨年は季節の移り変わりが早く、紅葉は10月下旬に少し色づき始め、11月中旬に真っ盛り、12月初めに数本のモミジが最後の輝きを見せてくれました。通常ならばもう少し晩秋の紅葉を楽しめると思います。

花ごよみ ～紅葉～

御所・離宮には多種多様な樹木や花々が植えられています。季節毎に可憐で美しい花を咲かせ、新緑や紅葉など、四季折々の違った表情を見ることができます。花ごよみのコーナーでは、そんな御所・離宮の美しさを織りなす樹木や花々を順次紹介していきたいと思えます。



京都仙洞御所 紅葉橋（中央）を望む 観

◆ 各所の紅葉

御所・離宮には秋を彩るイロハモミジやオオモミジが植えられています。特に、京都仙洞御所と桂離宮にはモミジが多数植えられている「紅葉山」があります。さらに、京都仙洞御所には北池と南池を結ぶ堀割に架けられた「紅葉橋」（[菜其の三](#)）と呼ばれる土橋があり、その名にたがわず非常に美しい紅葉が広がっています。その年の気候によって色づき始める時期や見頃に変化がありますが、例年11月下旬から12月上旬にかけて見頃を迎えます。また、見頃を迎えた紅葉だけではなく、木から散り敷いた紅葉も、自然の芸術作品として参観者の方々を楽しませています。



京都御所 御内庭 通

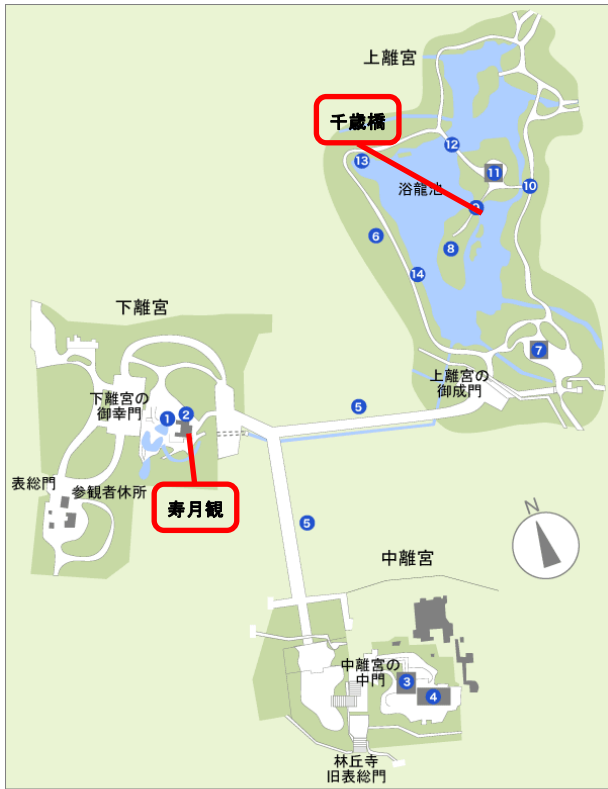


修学院離宮 浴龍池北西から千歳橋を望む 観



桂離宮 表門から御幸門を望む 観

修学院離宮案内図



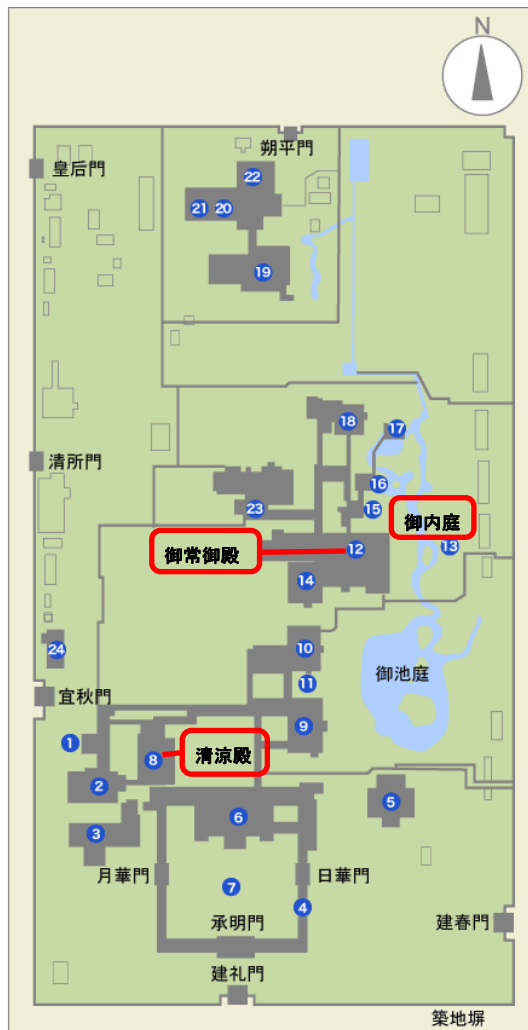
- | | | | |
|------------|------------|------------|--------|
| 下離宮 | 中離宮 | 上離宮 | |
| 1 御輿寄 | 3 楽只軒 | 6 大刈込 | 10 楓橋 |
| 2 寿月観 | 4 客殿 | 7 隣雲亭 | 11 窮遠亭 |
| | 5 松並木 | 8 万松場 | 12 土橋 |
| | | 9 千歳橋 | 13 御舟着 |
| | | | 14 西浜 |

桂離宮案内図



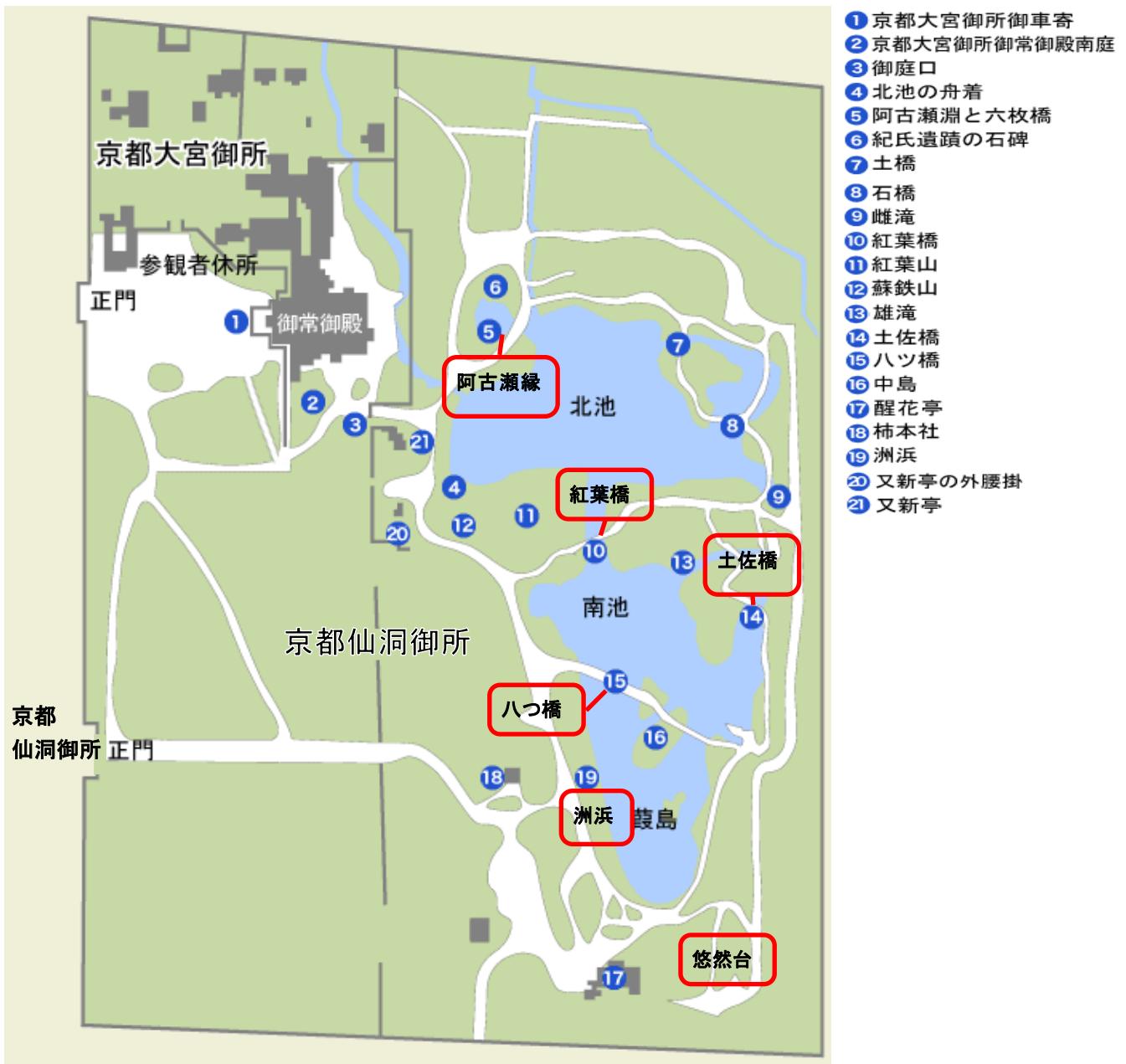
- 1 御幸道
- 2 外腰掛
- 3 蘇鉄山
- 4 洲浜
- 5 天の橋立
- 6 石橋
- 7 松琴亭
- 8 賞花亭
- 9 園林堂
- 10 笑意軒
- 11 月波楼
- 12 古書院
- 13 月見台
- 14 中書院
- 15 新御殿
- 16 住吉の松
- 17 柱垣
- 18 礎垣

京都御所案内図



- 1 御車寄
- 2 諸大夫の間
- 3 新御車寄
- 4 回廊
- 5 春興殿
- 6 紫宸殿
- 7 南庭
- 8 清涼殿
- 9 小御所
- 10 御学問所
- 11 蹴鞠の庭
- 12 御常御殿
- 13 御内庭
- 14 御三間
- 15 迎春
- 16 御涼所
- 17 聴雪
- 18 御花御殿
- 19 皇后宮常御殿
- 20 若宮御殿
- 21 姫宮御殿
- 22 飛香舎
- 23 参内殿
- 24 参観者休所

京都仙洞御所・京都大宮御所案内図



観マークは、参観でご覧になれます。申込み方法は、<http://sankan.kunaicho.go.jp/> をご覧ください。

通マークは、申込不要の京都御所通年公開でご覧になれます。

詳細は、<http://www.kunaicho.go.jp/info/kyototsunen-sks-sankan.html> をご覧ください。

これまでの「《京都》御所と離宮の葉」については、宮内庁ホームページの[こちら](#)からご覧ください。

<問い合わせ先>

〒602-8611 京都市上京区京都御苑3 宮内庁京都事務所
代表電話：075-211-1211 参観係直通電話：075-211-1215